

「とんでいったふうせんは」を読んで

二年二組 近藤 結菜

私は、この本を読むまで、認知症というのは、ものやすれが多くなったり、何度も同じことを聞いてきたりすることがふえてきて、本人もまわりの家ぞくもつらく悲しいでしょう。いようだと思っていました。

私がこの本をえらんだのは、もし私のひいおばあちゃんが、認知症になったら私に何が出来るのかを知りたいと思ったからです。ま

た、絵本の絵が可愛いと思ったのと、本屋ではたらいっているお姉さんがオススメしてくれたからです。

この本は、長く生きてきた数だけ、それぞれが色々な思い出がつまったふうせんをもっているけれど、年をとると無いしきのうちに大じに手にもっていたふうせんをどこかにとばしてしまいます。ですが、ただふうせんがとんで行ってしまったわけではなくて、まわりの人たちだったり、ささえてくれる家ぞく

か<sup>か</sup>と<sup>と</sup>ん<sup>ん</sup>で<sup>で</sup>行<sup>い</sup>っ<sup>て</sup>しま<sup>ま</sup>っ<sup>た</sup>ふ<sup>ふ</sup>う<sup>う</sup>せ<sup>せ</sup>ん<sup>ん</sup>と<sup>と</sup>同<sup>どう</sup>じ<sup>じ</sup>ふ<sup>ふ</sup>う<sup>う</sup>  
せ<sup>せ</sup>ん<sup>ん</sup>を<sup>を</sup>も<sup>も</sup>っ<sup>て</sup>い<sup>い</sup>る<sup>る</sup>か<sup>か</sup>ら<sup>ら</sup>、た<sup>た</sup>と<sup>と</sup>え<sup>え</sup>と<sup>と</sup>ん<sup>ん</sup>で<sup>で</sup>行<sup>い</sup>っ<sup>て</sup>  
しま<sup>ま</sup>っ<sup>た</sup>も<sup>も</sup>そ<sup>そ</sup>れ<sup>れ</sup>は<sup>は</sup>悲<sup>かな</sup>しい<sup>い</sup>こ<sup>こ</sup>と<sup>と</sup>で<sup>で</sup>は<sup>は</sup>な<sup>な</sup>い<sup>い</sup>い<sup>い</sup>う<sup>う</sup>  
お<sup>お</sup>話<sup>わ</sup>で<sup>で</sup>す<sup>す</sup>。

一<sup>一</sup>ば<sup>ば</sup>ん<sup>ん</sup>心<sup>こころ</sup>に<sup>に</sup>の<sup>の</sup>こ<sup>こ</sup>っ<sup>た</sup>の<sup>の</sup>は<sup>は</sup>、せ<sup>せい</sup>い<sup>い</sup>ご<sup>ご</sup>に<sup>に</sup>は<sup>は</sup>せ<sup>せ</sup>ん<sup>ん</sup>  
ぶ<sup>ぶ</sup>の<sup>の</sup>ふ<sup>ふ</sup>う<sup>う</sup>せ<sup>せ</sup>ん<sup>ん</sup>を<sup>を</sup>お<sup>お</sup>じ<sup>じ</sup>い<sup>い</sup>ち<sup>ち</sup>ゃ<sup>ゃ</sup>ん<sup>ん</sup>ば<sup>ば</sup>と<sup>と</sup>ば<sup>ば</sup>し<sup>し</sup>て<sup>て</sup>しま<sup>ま</sup>  
っ<sup>た</sup>け<sup>け</sup>れ<sup>れ</sup>ど<sup>ど</sup>、男<sup>おとこ</sup>の<sup>の</sup>子<sup>こ</sup>が<sup>が</sup>、

「<sup>っ</sup>ぼ<sup>ぼ</sup>く<sup>く</sup>が<sup>が</sup>お<sup>お</sup>ぼ<sup>ぼ</sup>え<sup>え</sup>て<sup>て</sup>い<sup>い</sup>る<sup>る</sup>か<sup>か</sup>ら<sup>ら</sup>大<sup>だい</sup>丈<sup>丈</sup>夫<sup>ふ</sup>だ<sup>だ</sup>よ<sup>よ</sup>」  
と<sup>と</sup>言<sup>い</sup>っ<sup>て</sup>お<sup>お</sup>じ<sup>じ</sup>い<sup>い</sup>ち<sup>ち</sup>ゃ<sup>ゃ</sup>ん<sup>ん</sup>に<sup>に</sup>お<sup>お</sup>話<sup>わ</sup>を<sup>を</sup>聞<sup>き</sup>か<sup>か</sup>せ<sup>せ</sup>て<sup>て</sup>あ<sup>あ</sup>げ<sup>げ</sup>  
る<sup>る</sup>こ<sup>こ</sup>ろ<sup>ろ</sup>で<sup>で</sup>す<sup>す</sup>。

な<sup>な</sup>ぜ<sup>ぜ</sup>そ<sup>そ</sup>の<sup>の</sup>ば<sup>ば</sup>め<sup>め</sup>ん<sup>ん</sup>が<sup>が</sup>良<sup>よ</sup>か<sup>か</sup>っ<sup>た</sup>か<sup>か</sup>と<sup>と</sup>言<sup>い</sup>う<sup>う</sup>と、男<sup>おとこ</sup>  
の<sup>の</sup>子<sup>こ</sup>が<sup>が</sup>お<sup>お</sup>じ<sup>じ</sup>い<sup>い</sup>ち<sup>ち</sup>ゃ<sup>ゃ</sup>ん<sup>ん</sup>に<sup>に</sup>ふ<sup>ふ</sup>う<sup>う</sup>せ<sup>せ</sup>ん<sup>ん</sup>の<sup>の</sup>中<sup>ちゅう</sup>の<sup>の</sup>思<sup>おも</sup>い<sup>い</sup>出<sup>で</sup>  
話<sup>わ</sup>を<sup>を</sup>一<sup>いっ</sup>生<sup>せい</sup>け<sup>け</sup>ん<sup>ん</sup>め<sup>め</sup>い<sup>い</sup>話<sup>わ</sup>し<sup>し</sup>て<sup>て</sup>い<sup>い</sup>る<sup>る</sup>す<sup>す</sup>が<sup>が</sup>た<sup>た</sup>に<sup>に</sup>か<sup>か</sup>ん<sup>ん</sup>ど<sup>ど</sup>  
う<sup>う</sup>し<sup>し</sup>た<sup>た</sup>か<sup>か</sup>ら<sup>ら</sup>で<sup>で</sup>す<sup>す</sup>。

こ<sup>こ</sup>の<sup>の</sup>本<sup>ほん</sup>を<sup>を</sup>読<sup>よ</sup>ん<sup>ん</sup>で<sup>で</sup>、こ<sup>こ</sup>れ<sup>れ</sup>か<sup>か</sup>ら<sup>ら</sup>も<sup>も</sup>し<sup>し</sup>ひ<sup>ひ</sup>い<sup>い</sup>お<sup>お</sup>ば<sup>ば</sup>あ<sup>あ</sup>  
ち<sup>ち</sup>ゃ<sup>ゃ</sup>ん<sup>ん</sup>の<sup>の</sup>も<sup>も</sup>っ<sup>て</sup>い<sup>い</sup>る<sup>る</sup>ふ<sup>ふ</sup>う<sup>う</sup>せ<sup>せ</sup>ん<sup>ん</sup>が<sup>が</sup>と<sup>と</sup>ん<sup>ん</sup>で<sup>で</sup>行<sup>い</sup>っ<sup>て</sup>  
しま<sup>ま</sup>っ<sup>た</sup>ら<sup>ら</sup>、そ<sup>そ</sup>の<sup>の</sup>ふ<sup>ふ</sup>う<sup>う</sup>せ<sup>せ</sup>ん<sup>ん</sup>は<sup>は</sup>私<sup>わたし</sup>が<sup>が</sup>し<sup>し</sup>っ<sup>かり</sup>も<sup>も</sup>  
っ<sup>て</sup>、ひ<sup>ひ</sup>い<sup>い</sup>お<sup>お</sup>ば<sup>ば</sup>あ<sup>あ</sup>ち<sup>ち</sup>ゃ<sup>ゃ</sup>ん<sup>ん</sup>に<sup>に</sup>、

「<sup>っ</sup>私<sup>わたし</sup>が<sup>が</sup>お<sup>お</sup>ぼ<sup>ぼ</sup>え<sup>え</sup>て<sup>て</sup>い<sup>い</sup>る<sup>る</sup>か<sup>か</sup>ら<sup>ら</sup>大<sup>だい</sup>丈<sup>丈</sup>夫<sup>ふ</sup>だ<sup>だ</sup>よ<sup>よ</sup>」  
と<sup>と</sup>言<sup>い</sup>っ<sup>て</sup>あ<sup>あ</sup>げ<sup>げ</sup>たい<sup>い</sup>な<sup>な</sup>と<sup>と</sup>思<sup>おも</sup>い<sup>い</sup>ま<sup>ま</sup>し<sup>し</sup>た<sup>た</sup>。

お	ば	あ	ち	ゃ	ん	、	ぼ	く	に	で	き	る	こ	と	あ	る			
わ	た	し	は	、	お	ば	あ	ち	ゃ	ん	、	ぼ	く	に	で	き	る		
と	あ	る	と	い	う	本	を	読	み	ま	し	た	。	こ	の	本	を		
ん	だ	の	は	、	わ	た	し	に	は	お	ば	あ	ち	ゃ	ん	2	人		
い	な	い	か	ら	、	お	ば	あ	ち	ゃ	ん	と	の	お	話	し	に		
し	た	。																	
こ	の	本	は	、	オ	ス	カ	ー	と	い	う	男	の	子	が	主	人		
で	す	。	大	す	き	な	お	ば	あ	ち	ゃ	ん	と	の	毎	日	の		
ら	、	お	ば	あ	ち	ゃ	ん	の	と	く	べ	っ	な	お	う	ち	に		
こ	し	て	行	く	ま	で	の	お	話	し	で	す	。						
	わ	た	し	か	こ	の	本	を	読	ん	で	、	一	番	心	に	の		
た	と	こ	ろ	は	、	2	人	は	い	っ	し	よ	に	い	て	て	し		
せ	そ	う	だ	、	た	け	ど	、	お	ば	あ	ち	ゃ	ん	の	ほ	う		
し	そ	う	に	し	て	た	と	こ	ろ	で	す	。							
	あ	と	お	ば	あ	ち	ゃ	ん	は	、	だ	れ	に	も	会	い	た		
い	と	き	が	あ	る	の	は	ど	う	し	て	な	ん	や	ろ	と	思		
し	た	。	な	ん	で	も	な	い	こ	と	が	で	き	な	い	。	ね		
く	な	る	。	大	き	な	声	を	あ	げ	る	。	い	ろ	い	ろ	わ		
て	し	ま	う	。	で	も	オ	ス	カ	ー	は	、	お	ば	あ	ち	ゃ		
													お	ば	あ	ち	ゃ	ん	が

大すぎ。みんなやさしいと思いました。  
 この前、わたしのパパもおばあちゃんが  
 のれすれかゝどくなつてきてけんさしたと言  
 ったので、おんなじなのかと思つた。  
 オスカーは、おばあちゃんのためにおも  
 でのはこのを作つた。すごいと思つた。これ  
 いつでもたのしいおしゃべりができるとい  
 なと思つた。おばあちゃんがわすれていつち  
 やうから、オスカーはいっぱいおてつだいを  
 する。わたしもオスカーだつたらいいお  
 てつだいをしたいと思つた。すこしさみしく  
 なつたらみんなときどきつとしたら元氣になれ  
 るんやと思つた。  
 わたしはこの本を読んで、みんなやさしい  
 し、楽しそうだし、えがおで、ここはみんな  
 のいばしよなんだろうなと思ひました。わた  
 しにもこんなときがきたら、おてつだいをい  
 っぱいして、ぎゅつとしたいと思ひました。

っ おばあちゃんにささげる歌」を読んで  
 この本は、アストリッドが主人公で、アスト  
 リッドからの視点でおばあちゃんが認知症と  
 いう病気になっ て変わっ たところを書いてい  
 る本です。  
 このおばあちゃんは大ぼうけんをしたり  
 トンチンカンなことをしたり急に起こったリ  
 していつも家族を困らせたリ、あるいはみん  
 なを笑わせたリするおばあちゃんです。  
 私はこれについてとても共感しました。なぜ  
 なら私にも認知症のおじいちゃんがあります。  
 私のおじいちゃんもトンチンカンなことをよ  
 くします。例えば回転寿司に行っ たときにお  
 寿司のお皿に、温かいお茶をかけてみんなを  
 ビックリさせました。私はこれを見て海鮮茶  
 漬けにしたか、たんねと話すとき、みんなが  
 笑いました。けれどおじいちゃんがしてしま  
 ったことでおこりたくなるときもあるけど、いっ  
 もがまんしたり、笑いに変えていきます。そん

山崎 廉武

な時にこの本の「病気になる前のおばあちゃん」を覚えていっているようにしておばあちゃんがいろいろなわすれても、がまん強く、やさしく、ましようらとママは、わたしたちに言います。わたしのおばあちゃんは、世界中で一番やさしいおばあちゃんです。という文章が一番印象に残っています。おこりたくなかった時にはこの文章を思い出してがまん強く、やさしくしてあげたいと思います。

んがいろんな場所へ連れて行ってくれて、やさしくしてくれたおばあちゃんをいつまでも忘れません。おこりそうになっても大好きなおばあちゃんを思い出して家族全員おばあちゃんにやさしくしてあげたいと思います。病気になる前もなつてからもおばあちゃんは大切な家族です。大変なこともあるけれど、おばあちゃんやんが笑うと家族みんな笑っています。私は大好きなおばあちゃん、これからは思い出さず、生きていきたいと思います。

ぼくのお家も、数年間おはあちゃんが満気に	そうに話しこいます。	あちやんと、の楽しかった思い出を少しさみし	さい時のきあは覚えていきます。ママはおは	最近の出来事は忘れてしまふけれど昔のきい	かあります。認知症になつたおはあちゃんは、	ちゃんがいさいとき思い出した場面	リッドと同じ9オジロのお話しやおはあ	物語の中で、アストリッドのママがアスト	ストリッドがお話ししてくる物語です。	たおはあちゃんのくらしやかむくの变化をア	人のちいさいころのお話しや、認知症になつ	の子が主人公で、認知症になつたおはあちゃん	この物語は、アストリッドという9オの女	んびみたいたいと思ひました。	症にふいて知りたいたいといろいろな本を読	去年認知症の本を読んひも、とくわしく認知	ぼくがこの本を読もうと思ひたきかけは	おはあちゃんにささげる歌	5年1組 萬 悠晟
----------------------	------------	-----------------------	----------------------	----------------------	-----------------------	------------------	--------------------	---------------------	--------------------	----------------------	----------------------	-----------------------	---------------------	----------------	----------------------	----------------------	--------------------	--------------	-----------

なってかいごをしていました。一番辛い事は  
 てぎていた事ができなくなる事だと思います。  
 ぼくも元気だったころのおばあちゃんを知っ  
 ているから病気になるったおばあちゃんを見て  
 不安に思っただ事もありました。でも家族が病  
 気をうけとめてお互いにおぎない支え合う事  
 が大事だと思いました。  
 おばあちゃんの場合がだんだんわるくなり  
 わすれっぽくなってもみんなで笑って話しま  
 す。本当は泣きたい気持ちけど笑うとすこし  
 は気がやすまるからです。具合が悪くなるお  
 ばあちゃんを家族が見てとても辛い気持ちに  
 なうと思います。でも笑ってふきとばしてい  
 る家族の様子を見てスゴイと思いました。  
 病気になる前のおばあちゃんを覚えてい  
 るようにしておばあちゃんがいろいろ忘れて  
 もがまん強くやさしくしよう。とママは  
 います。ぼくも認知症や病気のの人にそんけい  
 と思いやりを持って接する事が大切だと思  
 いました。

お	会	一	に	う	ど	ば	し	る	人	り	や	は	た	然	お	す				
ば	え	諸	し	事	ら	あ	た	た	で	し	が	出	。	あ	し	。	こ			
あ	る	に	ま	を	た	ち	。	め	住	て	な	来	お	ば	ャ	お			お	
ち	の	住	し	知	け	ャ	者		ん	い	と	ま	ば	あ	ネ	ば	お		は	
ャ	が	め	た	っ	れ	ん	の	者	で	ま	い	が	ち	ャ	な	あ	話		あ	
ん	楽	る	。	て	ど	の	部	の	い	し	い	夏	ャ	ん	服	ち	の		ち	
と	し	事	否	、	、	部	屋	室	ま	た	け	な	ん	が	が	ャ	主		ャ	
の	み	き	は	お	お	屋	に	に	し	。	な	の	は	認	大	ん	人		ん	
生	で	楽	お	ば	ば	に	な	る	た	今	い	に	、	知	好	は	公		の	
活	ワ	し	ば	あ	あ	な	予	越	、	で	事	冬	一	症	ま	、	は	一	あ	
は	ク	み	あ	ち	ち	り	定	し	生	お	忘	の	人	に	し	お	否		か	
、	ワ	に	ち	ャ	ャ	ま	だ	て	治	ば	れ	服	で	な	た	店	と		色	
否	ク	し	ャ	ん	ん	し	っ	来	た	あ	こ	着	服	っ	。	を	お			
の	し	て	ん	に	が	た	っ	る	ま	ち	し	着	に	て	と	経	ば			
思	こ	い	が	部	認	。	た	事	障	ャ	ま	こ	着	し	こ	学	あ			
っ	い	ま	大	屋	知	最	部	に	が	ん	っ	い	が	ま	ろ	し	ち	中		
て	ま	し	好	を	症	初	屋	ち	を	は	て	た	え	い	が	て	カ			
り	し	た	ま	譲	だ	は	は	り	て	、	い	り	る	ま	、	て	ん			
る	た	。	で	る	と	と	、	ま	い	一	た	、	事	し	突	、	で			
様	が		、	事	言	ま	お	ま	い	一	た	、	事	し	突	、	で			

な	も	の	で	は	あ	り	ま	せ	ん	で	し	た	。	新	し	い	記	憶	を	忘	れ	て	い	く	と	聞	き	ま	し	た	。	お	ば	あ	ち	や	ん	も	自	分	の	年	歳	を	聞	か	れ	て	、	三	十	歳	と	答	え	て	い	ま	し	た	。	家	族	は	笑	っ	て	い	ま	し	た	が	、	私	は	笑	え	ま	せ	ん	で	し	た	。	両	親	が	忙	し	く	、	お	ば	あ	ち	や	ん	と	二	人	の	時	間	が	増	え	、	否	に	同	じ	事	を	何	回	も	聞	い	て	く	る	の	で	最	初	は	良	か	っ	た	の	で	す	が	途	中	か	い	否	は	悲	し	く	な	っ	て	ま	ま	し	た	。	そ	し	て	両	親	に	そ	の	事	を	相	談	し	て	家	族	会	議	を	開	き	ま	し	た	。	父	か	ら	お	ば	あ	ち	や	ん	が	日	中	に	デ	イ	サ	ー	ビ	ス	に	行	く	事	を	聞	い	て	、	否	は	お	ば	あ	ち	や	ん	に	何	か	し	て	あ	げ	た	い	な	と	考	え	ま	し	た	。	そ	の	結	果	、	母	に	も	相	談	し	て	服	装	を	コ	ー	デ	ィ	ネ	ー	ト	し	て	オ	シ	ヤ	レ	を	さ	せ	て	あ	げ	る	事	に	し	ま	し	た	。	母	は	デ	ィ	サ	ー	ビ	ス	で	ハ	ン	ド	ト	リ	ー	ト	メ	ソ	ト	の	ホ	ラ	ン	テ	ィ	ア	も	始	め	ま	し	た	。	何	か	ひ	と	つ	で	も	ま	っ	か	け	が	あ	れ	ば	、	人	は	元	気	に	な	れ	る	。	現	在	認	知	症	の	方	々	も	、	否	の	お	ば	あ	ち	や	ん	の	様	に	自	分	ら	し	く	生	き	生	き	と	生	活	で	ま	る	世	の	中	で	あ	っ	て	欲	し	い	こ	と	す	。
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---